

---

# ピルジカイニド塩酸塩により不整脈を生じた 保存期腎不全患者の一例

安齋寛之、米田真也、成田直史、北島正一  
由利組合総合病院

## A case of conservative chronic renal failure with arrhythmia due to *Pilsicainide* hydrochloride

Hiroyuki Anzai, Shinya Maita, Naofumi Narita, Seiichi Kitajima  
Yuri Kumiai General Hospital

### <緒言>

ピルジカイニド塩酸塩は Vaughan Williams 分類で Ic 群に属する抗不整脈薬抗不整脈薬で、主に腎排泄性である。臨床的には難治性の頻脈性不整脈の治療薬として用いられている。

今回、われわれは保存期腎不全の患者でピルジカイニド塩酸塩によって不整脈を生じた症例を経験したので報告する。

### <症例>

【症例】80歳、男性

【主訴】意識レベル低下

【既往歴】高血圧と不整脈で近医通院中

【家族歴】特記すべき事はない

【現病歴】平成21年8月、午前10時頃より意識レベルの低下を家族に指摘され当院に救急搬送となった。来院時 JCS II -10 で、心電図モニター上で wide QRS、RR 不整を認めたため精査・加療目的で入院となった。

【入院時所見】意識レベルは JCS で II -10。貧血及び黄疸は無かった。腹部は平坦で軟であった。血圧 101 / 48 mmHg、脈拍 43 回 / 分・不整、体温 36.9 °C、呼吸状態は安定していた。

【血液検査所見】心電図で wide QRS、RR 不整 を認めた (図1)。血液生化学検査では、BUN 36.3 mg/dl、CRE 2.60 mg/dl と上昇を認めた。電解質は Na 139 mEq/l、K 5.1 mEq/l と大きな異常を認めなかった。

【入院後経過】入院後、近医からの処方薬の検索を行うとピルジカイニド塩酸塩が処方されていた。また、腎機能障害を認めたため、この薬剤による副作用を疑った。wide QRS を認めたが、循

環は維持されていると判断し除細動、血液透析等の処置を施行することなく、輸液による wash out を行ったところ徐々に正常の narrow QRS に復した (図 2)。

血中のピルジカイニド濃度は入院時の  $4.47 \mu\text{g/ml}$  と有効血中濃度を大きく超えていたが、その後  $0.05 \mu\text{g/ml}$  以下にまで低下し新たな症状も無く退院した。

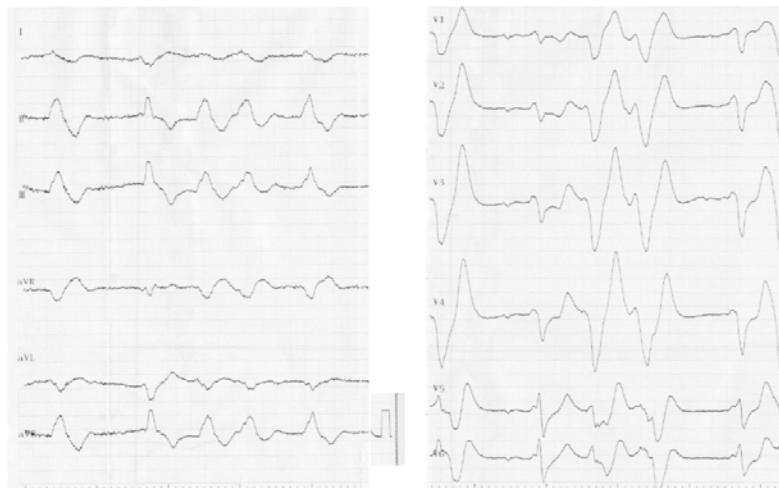


図 1. 十二誘導心電図  
wide QRS、RR 不整 を認めた。

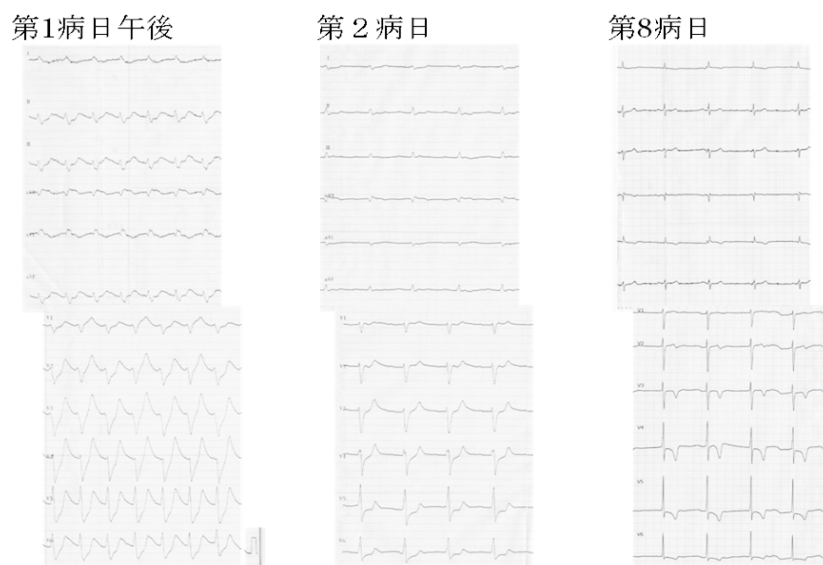


図 2. 十二誘導心電図  
第 1 病日午後には RR 間隔は整となり、QRS 幅も徐々に狭小化した。

## <考察>

ピルジカイニドは Vaughan Williams 分類で Ic 群に属する抗不整脈薬である。臨床的には心房細動など難治性の頻脈性不整脈の治療薬として用いられている。心房細動においてはアミオダロンと並び薬物治療の第一選択に挙げられる<sup>1) 2)</sup>。

代謝経路は主に腎排泄性であり、過量投与や腎機能障害により血中濃度が上昇すると用量依存性に副作用を生じやすくなる。副作用として刺激伝導障害があり、QRS 幅の増大、心室細動、心室頻拍、洞停止、完全房室ブロック、失神等を起こすことがある。

薬剤性の徴候・症状が疑われる症例では、投与を直ちに中止し、重症度などから血液透析等の腎機能代用療法の適応を判断し<sup>3)</sup>、必要に応じて対症療法を追加すること、またそれら処置の準備を整えておくことが必要である。

本例でも、心房細動に対してピルジカイニド塩酸塩による薬物治療が行われていたが、心電図や血圧、薬物血中濃度測定等の監視を継続することが望ましいと思われた。投与量等について詳細は得られなかったが、投与量の増加や代謝・排泄に影響を及ぼすような大きな全身の状態変化を機に発症した例ではないことから、処方量が過量であった可能性があると考えられた。

## <結語>

ピルジカイニド塩酸塩により不整脈を生じた症例を経験した。症状によって発見されたが循環は保たれていると判断し点滴の処置のみで軽快した。

投与開始時や変更時は血中濃度を測定したうえで、副作用の症状についてもよく患者自身に理解させることで早期の対処を可能にする必要がある。

## 文 献

- 1) 小川 聡：J-Rhythm 試験. 第 71 回日本循環器学会学術集会. 2007
- 2) KOMATSU Takashi, TACHIBANA Hideaki, SATO Yoshihiro, OZAWA Mahito, OHSHIMA Kyoko, ORII Makoto, KUNIGIDA Fusanori, NAKAMURA Motoyuki：孤立発生性および持続性心房細動患者の電氣的除細動前に投与されたシベンゾリンおよびピルジカイニド静脈内投与の有効性に関するランダム化試験, J Cardiol Vol.53 No.1 : 35-42, 2009
- 3) Paul L. Marino：The ICU Book 第 3 版：501-514, 2008